

# 若者の介護意識の実態把握と介護者としての備えに向けた検討

リスク工学グループ演習 2 班

押野悠大 佐々木彩葉 中村祐太 吳暁東  
アドバイザー教員 古川宏

## 1 背景

近年、我が国では国民の高齢化に伴い、介護人材の需要が増加している。厚生労働省が公表している介護人材にかかる需要推計結果によると、2025 年度時点の介護の需要は 253 万人に対し、介護の供給は 215 万人となっている。これより介護士の人手不足が問題視されている[1]。2025 年時点で約 37.7 万人の介護人材の不足が生じる恐れがある(図 1)。

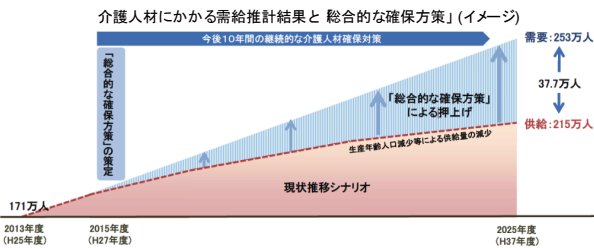


図 1 介護人材にかかる需給推計結果と「総合的な確保方策」[1]

介護従事者の不足の他に、一般家庭の介護の問題の一つとして介護離職が挙げられる。

介護離職とは、身近な人の介護を理由にやむを得ず仕事を退職する事である。厚生労働省が委託した仕事と介護の両立支援に関する調査より、介護を機に仕事を辞めた離職者の再就職状況を図 2 に示す[2]。介護を機に仕事を辞めてから再就職した者の割合は 75.5%となっている。その中で、介護離職後に離職前と同様に正社員として再就職ができていないのは半数にも満たない結果となっている。再就職が難しい現状が示唆されており、介護を見据えた人生設計が必要と考えられる。

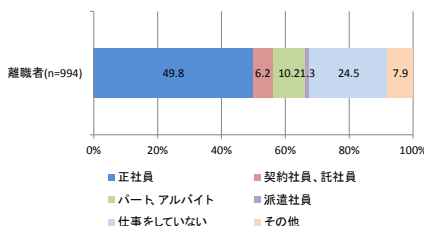


図 2 介護離職した人の再就職の状況 [2]

介護に関する問題は他に、老老介護、被介護者への虐待などが存在する。また、医療・介護制度改革がなされ、介護に関する経済的負担を国から個人に移行する方針を国が決定するのなど、介護に関する社会情勢は変化している。

介護が求められた時に必要な知識を持っており、正しい対応ができることが望ましい。介護に関する知識が備わっていない場合、介護に伴い介護者の QOL が著しく低下する可能性が考えられる。このリスクへの対策として、若者は介護者としての備えになるような知識が必要である。そこで若者が介護に備えて今できることは何かを検討することが重要であると考えられる。

## 2 目的

若者が介護に関して最初に直面するのは、基本的に両親や兄弟、親族等の介護者となる状況である。そのため、若者は、介護は自身にとってさほど関係がなく、まだ先のことである現実味のない問題であると感じている。しかし、自身が介護者となるだけでなく、自身の両親が祖父母や親族を介護するといった状況はさほど先のことではない。実際には想定していたよりも早くに介護が始まったと感じた人は存在している[4]。若者は介護に対してより早い段階で準備することが求められ、介護者としての備えがあることで、介護離職や介護者のうつ病といった QOL の低下を回避することができると考えられる。将来起こりうる介護に関する問題に対して、若い時に準備しておくべきことを明らかにすることが求められている。

そこで本研究では、まず若者に関わる介護意識の実態把握を行う。その実態を踏まえ、自身が介護者になった時の QOL の低下を防ぐ試みとして、若者に向けた教材の検討を行い周知することを目的とする。教材には、介護に関して若者が今すぐに対応できる内容を掲載する。

## 3 手法

本研究では、筑波大生を対象にアンケートを実施し、若者が介護の知識がないことで QOL 低下につながる可能性が高い項目を把握する。それらを踏まえ

て若者に介護について周知することを目的として、教材の検討・作成を行う。図 3 に本研究の流れを示す。

既往文献の調査を通じて社会的な介護問題の実情を把握する。また、本調査を行う前に、事前調査として簡易的なアンケートを実施する。事前調査は、若者が介護に関して抱いている意識調査を行うことを目的とした。

事前調査の結果を踏まえて、本調査で実施する詳細なアンケートの検討・作成を行う。近い将来必要となる介護知識について若者の認知度合や介護への意識を把握することで、若者の介護に関するリスク軽減にむけた教材の検討に繋げる。

本調査の結果を踏まえ、若者が知っておくべき知識を載せた教材の検討・作成を行う。作成した教材を実際に若者に読んでもらい、若者の知識や意識に関して事前と事後の比較を行う。また、数人の福祉の専門家に読んで頂き、教材としての妥当性も評価する。

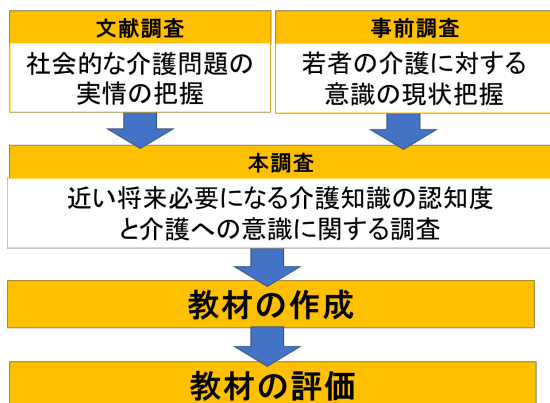


図 3 意識調査から教材検討までの流れ

## 4 既存調査

### 4.1 大学生を対象とした高齢者介護についての意識調査

大森[3]らは、「大学生を対象とした高齢者介護についての意識調査」として京都学院大学学生 103 名を対象にアンケートを実施した。まず「将来身内の誰かに介護が必要な状態になった時のために、介護の知識を学ぶ必要があると思うか」という質問に対し、男女合わせて 85%の人が介護の知識を学ぶ必要があると思っていることがわかった。「介護について学ばなければならないと考える事柄」には 49%の人が無回答で具体的に何を学べばよいかわからない人が多くいることが示された。

また、「自分や家族が将来高齢者になり介護が必要な状態になることに不安を感じているか」という質問に対して、同様に男女合わせて 66%の人が不安に感じると回答した。その理由として無回答や「どう

したらよいかわからない」という回答が多くを占めた。

### 4.2 「介護と年齢」に関する意識・実態調査

大王製紙(株)[4]は、在宅介護を行っている男女 300 名を対象にインターネットを通して『「介護と年齢」に関する意識・実態調査』を行った。まず「20 歳、30 歳の時、将来在宅介護を行うとっていましたか」という質問に対し、それぞれ 79%,76%の人が思っていなかったと回答した。「思ったよりも自分が若い年齢で『在宅介護』が始まったと思いますか」という質問に対しても 61%の人が「はい」と回答した。若い時は在宅介護を行うと予想していなかった人が多くを占め、想像よりも若い年齢で在宅介護をしている人が多数いることがわかった。

### 4.3 考察

既往研究の結果より、若者たちは介護に対して知識の準備も心の準備もできていないことが考えられる。しかし、先に述べた大学生を対象とした意識調査は 10 年前に実施されたものである。介護における状況は刻々と変化しており、現在若者が実際に介護に関してどのようなことを考えているかは定かではない。そこで、事前調査を実施し、若者が介護に対してどのような意識を抱いているのかを把握する必要があると考えられる。

## 5 事前調査

若者が介護に関して抱いている意識調査を行うことを目的とし、事前調査を行った。

### 5.1 アンケートの概要と対象

アンケートは平成 29 年 6 月 13 日～6 月 20 日に筑波大学生(大学 1 年生～修士 2 年生)の 36 人を対象に、介護に対して抱いている意識について、アンケート用紙を用いた調査を行った。

### 5.2 質問内容

若者が介護に対して抱いている意識や知っている介護の社会的な知識を調査するために、質問内容を以下のように設定した。

「周囲に介護に関わっている人の有無」、「家族の介護について考えたことがあるか」、「介護に関する学習の有無」、「介護が必要になる状況についての認知」、「介護サービスの認知」、「介護費用についての認知」、「人手不足から生じる問題」の 7 項目と設定した。

### 5.3 調査結果・考察

各項目の介護に対する意識・知識の調査結果を図 4 に示す。調査結果から、約 78%の人が周囲に介護へ

関わっている人がいないことが明らかとなった。また、介護について学習したことがない人は 70%以上であり、介護にかかる費用について知らない人も 70%程度いることがわかった。若者は介護を身近に感じるのが難しい状況にあり、介護に関する具体的な知識がまだ十分に備わっていない可能性がある。

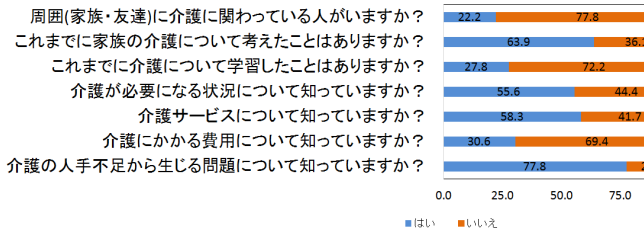


図 4 介護に対する意識・知識の調査結果

次に、介護に関する学習の有無と具体的な知識との関連性をみた。アンケートの回答で介護についての学習が「ある」と答えた人と、「ない」と答えた人で色分けし、具体的な知識に該当する「介護の必要な状況」と「介護にかかる費用」についての回答を分けた。図 5 に色分けした結果を示す。

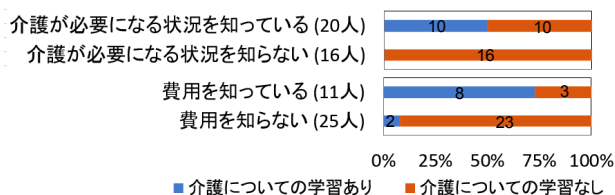


図 5 介護に関する学習経験の有無と具体的な知識との関連

介護について学習したことが「ない」と答えた人全員が「介護が必要になる状況を知らない」と回答し、同様に 9 割の人が「介護にかかる費用を知らない」と回答した。介護について学習した事がない人ほど介護が必要な状況について理解していない傾向があることがわかった。介護者としての備えになるような知識を補完することで、介護者となった際のリスクを軽減できると考えられる。

#### 5.4 本調査に向けた検討

事前調査を踏まえて本調査に向けての検討を行った。介護問題は社会的な背景から生じる問題と、各家庭から生じる問題があると考え、社会的なリスクと利用者の視点で考えたリスクに分けて考慮した。また、事前調査にて知識に関する問題については「はい」「いいえ」の 2 件法のため回答が極端になった可能性があり、本調査では回答の選択肢を増やすことにした。また、介護の費用については、「知っている」と回答した人が多く、誤解をしている可能性が示唆されたので、本調査では具体的な費用について聞くこととした。

## 6 介護に関する意識及び認知度調査

### 6.1 アンケートの概要と対象

アンケートは平成 29 年 8 月 28 日、9 月 11 日、10 月 4 日に筑波大学生(大学 1 年生～大学 4 年生)の 129 人を対象に、若者に近い将来関わってくる介護の問題に対する意識について、アンケート用紙を用いた調査を行った。

### 6.2 質問内容

アンケートは、「①介護における自身の状況と介護の知識」と「②介護に対する意識」の 2 章構成で、全部で 19 問とした。①の質問項目の例としては、「周囲に介護に関わっている人がいますか」、「介護サービスについて知っていますか」、「あなたの両親が東京都 23 区内にある有料老人ホーム(一人居室)に入居することになりました。その際入居金はいくら必要になると思いますか」であった。また、②の質問項目の例としては、「介護について考えたことがありますか(誰と話し合うか、考えたのはいつか)」、「あなたの家族に介護が必要になり、あなたが介護をしなければならない状況になったと仮定します。その際、あなたはどのようにしますか」、「もしあなたが今後、家族の介護に備えるとしたら、何が一番重要になると思いますか」であった。

### 6.3 調査結果

本節では、各問の回答のまとめと考察を示す。

#### 6.3.1 介護に関する知識について

##### a) 筑波大生におけるこれまでの介護との関わり (本調査アンケート Q1～Q2-1)

調査の結果、調査に協力した筑波大生の 69%が周囲に介護に関わっている人がいないと回答した。介護について学習したことがない人は 88%に昇ることがわかった。この結果から、周囲に介護に関わっている人がいないと介護を学習するきっかけが少なくなる事が考えられる。

介護について学習したことがあると回答した人(16名)でも、受動的な学習(小学校もしくは高校で学習した:7名)を経験したのは少数であり、介護自体が教育のカリキュラム内にあまり組み込まれていないと考えられる。大学での講義(教職科目を含む)で介護を学習した人は 9 人であり、介護体験や施設への訪問経験がある人は 3 人であった。こうしたことから、教育課程において介護学習を組み込むようにすれば、介護についての認知度が上がるのではないかと考えられる。

##### b) 介護サービスの認知度 (本調査アンケート Q3～Q6)

各サービスの内容に関する認知度は、デイサービスが 53%、訪問介護が 60%、老人ホームが 74%であり、半数以上の認知度であった。一方で、シ

ョートステイは 23%と認知度が低いことがわかった (図 6)。介護をしながら働くことを考えると、ショートステイを活用する場合も考えられるので認知度が低いのは問題であると考えられる。

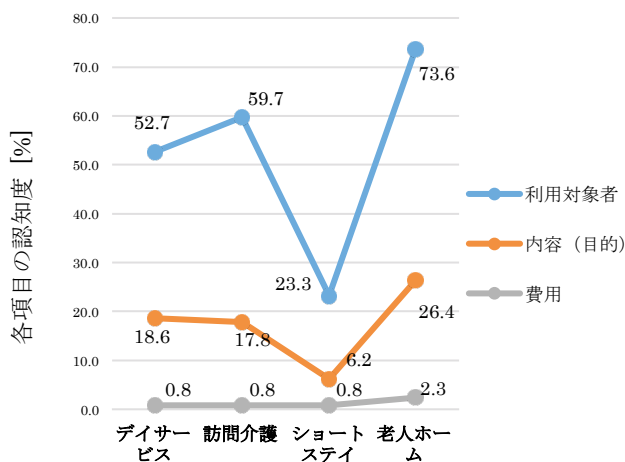


図 6 筑波大学生における各介護サービスに対する認知度(アンケート調査:回答者数 129 名)

利用対象者に関する認知度は、デイサービスが 19%、訪問介護が 18%、ショートステイが 6%、老人ホームが 26%であり、全ての項目で認知度は低かった。これは、先ほどの介護サービスの内容の結果と合わせて考えると、サービスの内容を知っている、利用者本人になるのはまだ先であるために具体的にどのような人が利用しているのかイメージできないといったことが考えられる。

介護の費用に関する認知度は、デイサービスが 1%、訪問介護が 1%、ショートステイが 1%、老人ホーム 2%であり、こちらの回答も全ての項目で認知度が 5%以下であり非常に低い事がわかった。このことから、費用に関する認知度が低いと、どの程度経済的に備える必要があるかわからないため、介護の問題に直面する恐れがあると考えられる。

介護保険制度について、知らないと回答した人は 33%で、聞いたことがある人は 55%で、詳細を知っていると答えた人はいなかった。この結果から、介護保険制度の認知度が低いわけではないが、内容をきちんと理解できている人はいないと考えられる。

要介護・要支援の分類について知らないと回答した人は全体のほぼ半数にあたる 49%であり、聞いたことがあるもしくは部分的に知っているという回答した人は残りの半数であった。この結果から、要介護・要支援についての認知度が低いわけではないが、分類をきちんと理解している人は少数であることがわかった。

費用に関する具体的な認知度を調査するために聞いた「東京都 23 区内の有料老人ホーム入居金はいくら必要か」という問いを設けた。この設問に対して、実際の入居金に近い額(500 万円～1,000 万円)の回答を選択した人は全体の 23%程度しかいなかった。介護サービスの費用に関する回答と合わせても、費用面について正しい知識を持っている人は少ないと考えられる。

#### b) 介護に関する問題の認知度 (本調査アンケート Q7～Q8)

介護に関する問題について、「介護人材の不足」、「待機老人」、「被介護者への虐待」、「介護離職」、「老々介護・認々介護」の 5 つの項目全てにおいて詳細について知っている人はほとんどいなかった。「介護人材の不足」や「被介護者への虐待」について聞いたことがある人は 8 割以上であったが、「待機老人」、「介護離職」、「老々介護、認々介護」について聞いたことがある人は約 6 割～7 割程度であった。各問題の中でも、特に介護離職は、自分自身に降りかかってくる問題であるため、そういった実情があることを把握しておくことが必要であると考えられる。

介護サービスを受ける必要が生じた際に相談する窓口を知っているかどうかを調査するために、「介護サービスを受ける必要性が出てきた際に、あなたは 1 番最初にどこに相談しますか」の問いを設けた。この設問に対する正解は「地域包括支援センター」であるが、調査で正解だった人は、全体の 10%しかいなかった。特に回答が多かったのは「市役所」や「病院」で、それぞれ全体の 36%、34%であった。学生は、「地域包括支援センター」について知らない可能性があるため、その存在を知っておく必要があると考えられる。

#### 6.3.2 介護に対する意識について

##### c) 介護について考えた時 (本調査アンケート Q9～Q10)

介護について、考えたことがある人は全体の 17%、少し考えたことがある人は 26%、あまり考えたことがない人は 44%、考えたことがない人は 13%であった。考えたことがない方に回答した人が半数以上いるため、若者の介護への意識はあまり高くないと考えられる。

また、介護について考えたことがある人の中で、介護について考えるにあたって、親と話し合った、または自分で考えたという回答した人は、それぞれ全体の 42%であった。次に多かったのが、兄弟姉妹と話し合った人であった (10%)。祖父母や友人、知人と話し合った人はほとんどいなかった。

介護について考えたタイミングについては、「大学生の頃」が 51%、「高校生の頃」が 38%、「中学生の頃」が 8%、「小学生の頃」が 3%であった。年

年齢を重ねるにつれて、介護について考え始める人が多くなると考えられる。また、年齢を重ねるにつれて親も年をとり、介護を必要とする年齢に近づいていくことから、親の年齢とも関係性があると考えられる。

介護について考えたきっかけの中で最も多かったのは「祖父母に介護が必要になったこと」で16名、次に多かったのが「祖父母の病気」で10名であった。その他にも「テレビで見た時」「親戚の死、介護」が3名、「親の病気、高齢化」「就活や進路を決める時」「授業や介護体験」「親が介護業界で働き始めた時」「実家の周囲に高齢者が多く、老人ホームができた」がそれぞれ2名であった。その他の回答としては「母親に介護の話をされた時」「就職を考えた時」「親の離婚に伴い」などが挙げられた。

「家族の年齢」については、親の年齢は50代が69%、40代が21%、60代が10%であった。また、祖父母の年齢は80代が最も多く52%で、次いで70代が35%、90代が9%、60代が4%であった。

#### d) 今後介護に直面する時を想定して（本調査アンケート Q11～Q13）

就職活動の際に介護に関する福利厚生を考慮する人は全体の25%であった。一方で、考慮しない人は66%であり、ほとんどの人が就職活動の際には介護に関する福利厚生を意識していないことがわかった。残りの12%は、今はまだわからないと回答している。学生は、数年後に就職活動を行う可能性があることを考えると、なるべく早く介護に対する福利厚生の知識を身につける必要があると考えられる。

「自身の家族に介護が求められたときに、あなたはどのようにするか」という問いに対して、「施設入居を検討する」と回答した人は59%で、最も多かった（図7）。本調査アンケートQ3（付録参照）の回答結果を考慮すると、費用面の知識を持ち合わせていないにも関わらず多くの学生は施設入居を漠然と検討している事がわかった。次いで多かったのが、「仕事を辞めないが被介護者の近くに自分で自分が介護する」で30%であった。一方で、仕事を辞めて自分が介護すると回答した人は、129人中1人しかいなかった。実際には、介護離職の現実があるにも関わらず、仕事を辞めざるを得ない可能性について検討している人はいなかった。家族が介護を必要とした時に、自分以外の誰かに任せるとした人は5%存在した。特に自分には関係ないと考えた人は1%であった。この結果から、家族が介護を必要とした際は、自分とは切り離せない問題であるという認識はあるものの、直接自分が介護しようと考えている人は少ないことがわかった。介護者として自分のためにも介護を見据え

た職業選択や福利厚生を考慮するべきであると考える。

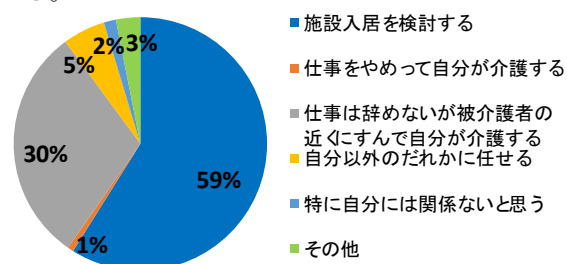


図7 家族が介護を必要としたときにとる行動

家族の介護に備えるとしたときに重視するものについて、65%の人が金銭面と回答し、最も多かった。次いで多かったのが、身内との話し合い（25%）、自身の仕事（10%）であった。金銭面を重視するという人が多いことが分かったが、介護サービスの費用についての認知度が低いため、介護サービスや入居施設に関する費用について正しい知識をもって備えることが必要であると考えられる。

## 6.4 本調査の考察

### ① 介護サービス（Q3、Q4、Q5、Q8）

介護サービスの内容や介護度の認定について認知が低いことがわかった。祖父母に介護が必要になった時や自身の親が介護をする必要が生じた際は、介護保険制度やサービスを正しく理解しておくことが望ましい。

### ② 金銭面（Q3、Q6、Q12、Q13）

介護に関する費用についての認知度が低いにも関わらず、施設入居を希望する人や金銭面を重視する人が多い。これより介護にかかる費用を正しく知っておく必要がある。

### ③ 福利厚生（Q11、Q12）

介護離職という実情があるにも関わらず、仕事を辞めざるを得ない可能性について検討している人はほとんどいなかった。介護者として自分のためにも、将来の介護を見据えた就職先や福利厚生を考慮したほうが良いと考えられる。

以上のことを踏まえ、教材に取り込む内容として、若者が今すぐ知っておくべき基本的な介護の現状、及び数年後の就職を見据えた情報を重点的に補完する。具体的には、介護サービスの種類や介護の問題、就職後に利用できる介護休業制度等を教材として内容に取り入れる。

## 7 教材の作成

### 7.1 教材の概要と対象

教材は3章からなる構成とした。最初の2章では知っておくべき基礎知識を説明する。1章において

介護が抱える問題を、2章では介護が抱える問題について詳細に説明した。その知識を踏まえ、3章において、今この教材を読み、学生に直近で取り組んでもらいたいことについて説明した。

#### ① 知っておくべき基礎知識(介護サービス編)

介護サービスの知っておくべき基礎知識としては、「介護サービスとその主なサービス」、「要支援と要介護の区分」についてまとめている。介護サービスについて詳しく取り上げた理由は、本調査において各介護サービスを利用する対象者や費用についての認知度が低かったためである。また、要支援や要介護については介護サービスを説明する上で詳細な区分が必要であると考えたためである。

#### ② 知っておくべき基礎知識(介護が抱える問題編)

介護が抱える問題の知っておくべき基礎知識としては、「待機老人」と「介護離職」を取り上げた。介護が抱える問題は他にも存在しているが、教材としての分量も考え、本調査で認知度があまり高くなかったことを考慮に入れ、上記の2つを選択した。また、この2つの問題は、施設に預けたくても金銭面や条件的に施設に入所できない現状や、介護をするために離職をする人は多くいるが再就職が厳しいといった現状を含んでいる。よって、介護が抱える問題のなかでもより若者に関わってくるものであると考え、選択した。

#### ③ 学生の私たちには何ができるの？

介護の基礎知識について学習し、学生の私たちができることはあるのかといった問いかけで、今後介護者としての備えに向けて、提案を述べた。提案した内容は、「就職時に介護に関する福利厚生が充実した会社を選択する」、「家族で相談をする」、「親が介護をすることになった時にできること」の3つである。この3つは、介護者になるのはまだ先ではあるが、介護者の備えとして事前に準備できることを挙げている。

本調査の中で、介護が必要になった時の相談窓口の認知度が低かったが、介護者になるのはまだ先のことであると考えられるため、最後に介護相談窓口の一覧を教材の付録として載せた。

## 7.2 教材の評価

本教材の評価には、教材を読んだ学習の成果と教材の妥当性が求められる。そこで、①教材を読んで勉強する学生の評価と②福祉の専門家による教材の評価を検討した。

#### ① 学生の評価

学生の評価については、平成29年10月11日～10月13日に筑波大生17人(リスク工学専攻を除く大学4年生～修士1年生)に協力を依頼し、評価を行った。協力者の意見としては、「介護についてわかりやすく学ぶことができてよかった」、「両親は自分自身が介護される用の貯蓄をしているのか聞いてみよ

うと思う」、「祖母の介護に母親が苦勞していたので、介護について自分も勉強し、手伝いなどができればよかった」といったことが挙げられた。

#### ② 福祉の専門家による評価

教材の妥当性について評価をしてもらうために、3人の立場の違う専門家に意見を伺った。本研究の目的に沿った教材としての評価は、「説明が見やすく工夫して解説されてわかりやすく、若者が直近で介護について考える上で十分な内容」という意見を頂いた。

## 8 まとめ

本研究では、まず若者に関わる介護意識の実態把握を行った。その実態を踏まえ、自身が介護者になった時や周囲の介護に関わる人のQOLの低下を防ぐ試みとして若者が今現在できることは何か、その提案を行った。また、若者にとって必要だと考えられる項目について調査を基に検討し、教材を作成した。

調査を通して、若者は介護サービスやその費用、自身が介護に対して利用できる福利厚生などの知識を持ち合わせている人が少ないことが明らかになった。そうした知識が不十分なのに関わらず、家族が介護を必要とした際、施設入居を検討する人が半数以上を占めた。介護に備えるのに重要な項目としては金銭面を回答する意見が多かった。これらの結果から、若者たちが考える介護への意識に反して、それに伴う知識量が圧倒的に足りないことが明らかになった。

それらの知識を補填する必要があると考え、教材を作成するに至った。教材の内容としては、知っておくべき基礎知識として、介護サービスと介護が抱える問題を載せた。その知識を踏まえて、学生に直近で取り組んでもらいたいことについて取り入れた。教材に関しては介護の専門家にも意見をもらい、教材内容の妥当性を評価した。その後、学生に教材を読んでもらい、教材の評価を行った。

若者が介護者として備えるには、身内との話し合いでお互いの意思を確認しておくことや、将来の介護を見据えた就職先や福利厚生を考慮することが望ましい。

しかし、本研究では筑波大学生のみを対象に調査を行ったため、一般の若者とは言い難い。この点については、全体を通して、過大な一般化をしないように気をつける必要がある。

## 9 今後の課題

本研究では、まず若者の実態把握を行ったが、本調査におけるQ8において介護の相談窓口について尋ねたつもりが、「家族に相談する」など、アンケー

ト結果に対して作成者側が意図しない回答があり、アンケート自体の改善の余地があると考えられる。

本調査の結果に対する分析では、各設問同士の回答の相関を分析するまで至らなかったため、介護の学習の有無で回答結果に違いがないかなど、より詳細な相関関係の分析の余地がある。

教材の内容についても専門家の意見も反映してさらなる発展が考えられる。若者は高齢者の生活は知らないことが多い。そこで、そうした高齢者の生活についても触れた内容を組み込むことによって、理解が深まるだけでなく、若者にとって現実味がより増した教材を作成することができると考えられる。

## 謝辞

本研究の遂行において、多くのご支援とご指導を賜った。事前調査やアンケート調査、教材評価の際に、多くの筑波大学の学生の方にご協力いただいた。感謝申し上げます。また、K 大学大学教員、宝塚市社会福祉協議会小林地域包括支援センターの針生麻菜美様、柏市役所福祉課の竹森友香様には、作成した教材に対して貴重なご意見をいただいた。厚く御礼を申し上げます。また、班員が所属する研究室の学生諸子にも、協力をいただいた。感謝する。

## 参考文献

- [1] 厚生労働省；2025 年に向けた介護人材にかかる需給推計(確定値)について,(2015),[http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-12004000-Shakaiengokyoku-Shakai-Fukushikibanka/270624houdou.pdf\\_2.pdf](http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-12004000-Shakaiengokyoku-Shakai-Fukushikibanka/270624houdou.pdf_2.pdf)
- [2] 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社；仕事と介護の両立に関する労働者アンケート調査,(2012),[http://www.mhlw.go.jp/bunya/kyoukintou/dl/h24\\_itakuchousa05.pdf](http://www.mhlw.go.jp/bunya/kyoukintou/dl/h24_itakuchousa05.pdf)
- [3] 大森直；「大学生を対象とした高齢者介護についての意識調査」,京都学園大学紀要,79-85,(2007),[http://archive.kyoutogakuen.ac.jp/~o\\_human/pdf/association/p2007\\_06.pdf](http://archive.kyoutogakuen.ac.jp/~o_human/pdf/association/p2007_06.pdf)
- [4] 大王製紙；『介護と年齢』に関する意識・実態調査（平成 29 年 5 月 29 日発表）,<https://prtimages.jp/a/?c=12928&r=10&f=d12928-10-pdf-0.pdf>

## 『介護に関するアンケート調査』へのご協力をお願い

私たちは、システム情報工学研究科リスク工学専攻『リスク工学グループ演習』において、介護に関する調査を行っています。今回、若者に近い将来関わってくる介護の問題に対する意識調査を行うことを目的として、アンケート調査を実施することといたしました。なお本調査で得たデータは上記の目的の研究資料として、回答いただいた票をまとめて集計・統計的処理を施します。

### ■ お問い合わせ先

筑波大学大学院 システム情報工学研究科リスク工学専攻 博士前期課程1年 グループ演習2班

代表 中村祐太

Eメール：s1720630@s.tsukuba.ac.jp

### I. あなたご自身のことについてお尋ねします。

FQ1 あなたの性別を教えてください。(1つに○)

1. 男性

2. 女性

FQ2 あなたの所属を教えてください。

大学生：( )学群 / 大学院生 ( )研究科

FQ3 あなたの学年を教えてください。

学類 ・ 大学院 ( )年

### II. 介護についてお尋ねします。

Q1 周囲に介護に関わっている人がいますか。

1. 兄弟・姉妹

4. 親戚

2. 親

5. 友人・知人

3. 祖父母

6. いない

Q2 介護について学習した事がありますか。

1. はい

2. いいえ

➡ Q2で2と回答した方は、Q3へお進みください

Q2-1 Q2で「はい」と答えた方にお聞きします。いつ・どこで介護について学習しましたか。

Q3 下記の介護サービスについて知っていますか。知っている項目の□にチェックを入れてください。費用については具体的な数字もお書きください(月々20万円など)。わからない場合はチェックしなくても構いません。

介護サービス	内容(目的)	利用対象者(条件)	費用
Q3-1 デイサービス	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	□ ( )
Q3-2 訪問介護	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	□ ( )
Q3-3 ショートステイ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	□ ( )
Q3-4 老人ホーム	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	□ ( )

Q4 介護保険制度について知っていますか。

1. 聞いた事がある

3. 詳細を知っている

2. 部分的に知っている

4. 知らない



Q5 介護サービスを受ける際に、その状態がどの程度なのかを判定するための指標である要介護・要支援の分類を知っていますか。

- |              |             |
|--------------|-------------|
| 1. 聞いた事がある   | 3. 詳細を知っている |
| 2. 部分的に知っている | 4. 知らない     |

Q6 あなたの親が東京都 23 区内にある有料老人ホーム(一人居室)に入居することになりました。その際、入居一時金はいくら必要になると思いますか。あてはまる番号に○をつけてください。(1つに○)  
(※入居一時金は家賃や食費などの月額料金が含まれない費用)

- |                    |                        |
|--------------------|------------------------|
| 1. 100 万円未満        | 4. 500 万円～1,000 万円未満   |
| 2. 100 万円～300 万円未満 | 5. 1,000 万円～5,000 万円未満 |
| 3. 300 万円～500 万円未満 | 6. 5,000 万円以上          |

Q7 下記の介護に関する問題について知っていますか。あてはまる番号に○をつけてください。

Q7-1 介護人材の不足

- |                              |         |
|------------------------------|---------|
| 1. 具体的な人数など詳細を知っている          | 3. 知らない |
| 2. ニュースや新聞で聞いたことはあるが詳しくは知らない |         |

Q7-2 待機老人

- |                              |         |
|------------------------------|---------|
| 1. 具体的な人数など詳細を知っている          | 3. 知らない |
| 2. ニュースや新聞で聞いたことはあるが詳しくは知らない |         |

Q7-3 被介護者への虐待

- |                              |         |
|------------------------------|---------|
| 1. 具体的な件数など詳細を知っている          | 3. 知らない |
| 2. ニュースや新聞で聞いたことはあるが詳しくは知らない |         |

Q7-4 介護離職

- |                              |         |
|------------------------------|---------|
| 1. 具体的な件数など詳細を知っている          | 3. 知らない |
| 2. ニュースや新聞で聞いたことはあるが詳しくは知らない |         |

Q7-5 老々介護・認々介護

- |                              |         |
|------------------------------|---------|
| 1. 具体的な件数など詳細を知っている          | 3. 知らない |
| 2. ニュースや新聞で聞いたことはあるが詳しくは知らない |         |

Q8 あなたの両親は生活の支援が必要となり、介護サービスを受ける必要性が出てきたと仮定します。その際、あなたは1番最初にどこに相談しますか。あてはまる番号に○をつけてください。(1つに○)

- |        |               |
|--------|---------------|
| 1. 市役所 | 4. 地域包括支援センター |
| 2. 病院  | 5. 社会福祉協議会    |
| 3. 保健所 | 6. その他 [ ]    |

**Ⅲ. あなたの介護に対する意識についてお尋ねします。**

Q9 介護について考えたことがありますか。

- |                |                |
|----------------|----------------|
| 1. 考えたことがある    | 3. あまり考えたことがない |
| 2. 少し考えたことがある。 | 4. 全く考えたことがない  |

➡ Q9 で 3, 4 と回答した方は、Q10 へお進みください

**Q9で1または2を選んだ方にお尋ねします。** 考えた時の状況はどのようなものでしたか。

Q9-1 介護について考えるにあたって誰と話し合いましたか。あてはまるものすべてを選択し、○をつけてください。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 親と話し合った	4. 友人・知人と話し合った
2. 兄弟姉妹と話し合った	5. 自分で考えた
3. 祖父母と話し合った	6. その他 [ ]

Q9-2 介護について考えたのはいつ(どのタイミング)ですか。あてはまるものすべてを選択し、○をつけてください。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 小学生の頃	4. 大学生の頃
2. 中学生の頃	5. その他 [ ]
3. 高校生の頃	

Q9-3 介護について考えたきっかけを教えてください。なお回答は差し支えない範囲で構いません。

--

Q10 あなたの家族の年代についてお答えください。複数人いる場合には最も高齢な方の年齢をご記入下さい。なお回答は差し支えない範囲で構いません。

Q10-1 親	1. 40歳代	2. 50歳代	3. 60歳代	4. 70歳代以上
Q10-2 祖父母	1. 60歳代	2. 70歳代	3. 80歳代	4. 90歳代以上

Q11 企業によっては介護をするために取得できる休暇や介護休業中の給付金が支給されるなどの介護に関する福利厚生があります。あなたは就職する企業を選ぶ上でこうした介護の福利厚生について考慮しますか。あてはまる番号に○をつけてください。(1つに○)

1. はい	2. 今はまだわからない	3. いいえ
-------	--------------	--------

Q12 あなたの家族に介護が必要になり、あなたが介護をしなければならない可能性がある状況になったと仮定します。その際、あなたは以下のどれを選択しますか。あてはまる番号に○をつけてください。(1つに○)

1. 施設入居を検討する	4. 自分以外の誰か(兄弟姉妹など)に任せる
2. 仕事を辞めて自分が介護をする	5. 特に自分には関係ないと思う
3. 仕事はやめないが被介護者の近くに住んで自分が介護をする	6. その他 [ ]

Q13 もしあなたが今後、家族の介護に備えるとしたら、何が一番重要になるとお考えですか。(1つに○)

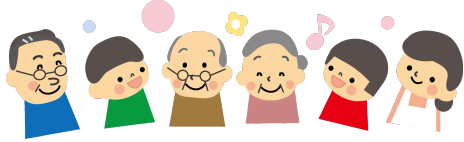
1. 金銭面	4. 特にない
2. あなた自身の仕事	5. その他 [ ]
3. 身内との話し合い	

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

最後にご意見・ご感想等ありましたらお書きください。

--

## 介護を知って考えてみよう



## 知っておくべき基礎知識 ～介護サービス編～

介護サービス  
何それ…？



## 介護サービスとは？

介護する側（介護者）とされる側（被介護者）の負担を軽減するサービスのこと

### 主な介護サービス

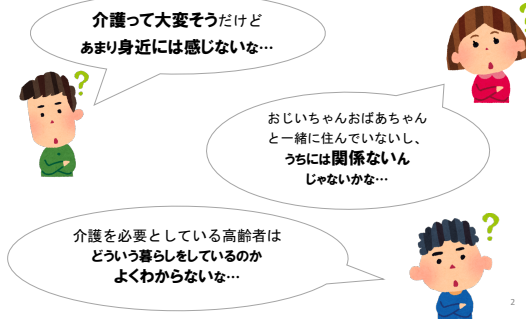
- A) 訪問介護（ホームヘルプ）
- B) デイサービス
- C) ショートステイ（短期入居生活介護）
- D) 入所施設：  
例）サービス付き高齢者向け住宅（有料老人ホームのこと）  
特別養護老人ホーム（特養）など  
（本教材ではよく耳にする**有料老人ホーム**について説明）
- E) 住宅改修：手すりの設置・段差の解消など
- F) 福祉用具：杖やベッドなどのレンタルや購入のサポート

状況と希望に合わせて、  
高齢者の介護生活を  
サポート！



## はじめに

介護についてあなたはどのように考えていますか？



## 介護サービスの利用にあたって

状況によっては、  
介護保険が使えないサービスもある！

### 保険が使える状況

要支援もしくは要介護状態にある「65歳以上の高齢者」と「40歳から64歳までの特定疾患の患者」

### 保険が適応されるとどうなるの？

介護保険料と国・自治体からの財源によって、1割もしくは2割の自己負担で受けられる！

介護保険を適応するサービスを受けるには  
申請を受けて介護度の認定が必要！



## A) 訪問介護（ホームヘルプ）って？

住み慣れた家で生活を続けたい・続けさせたいという本人や家族等の期待に応えるため、身の回りのことをしてくれるサービス

### 身体介護サービス

サービス	利用料金 (要介護1、一割負担の場合)
・トイレの手伝い	20分未満 165円/回
・食事中の見守り	20分以上30分未満 245円/回
・お風呂の手伝い	30分以上60分未満 388円/回
	60分以上90分未満 564円/回

### 生活援助サービス

サービス	利用料金 (要介護1、一割負担の場合)
✓ 掃除・洗濯	20分以上45分未満 183円/回
✓ 食事の用意	45分以上 225円/回

※基本同居家族がいる場合には利用できない

## 教材の構成

1. 知っておくべき基礎知識  
～介護サービス編～
2. 知っておくべき基礎知識  
～介護が抱える問題編～
3. 学生の私たちに何ができるの？



## 要支援と要介護の区分

要支援	要介護	身体の状態例	軽度	重度
要支援1	要介護1	日常生活はほぼ自分でできるが、現状を改善し、要介護状態予防のために少し支援が必要。	立ち上がりや歩行など不安定さが見られることが多くあり、日常生活に部分的な介助が必要。	
要支援2	要介護2	日常生活に支援が必要だが、それにより要介護状態にいたらず、改善する可能性が高い。	立ち上がりや歩行などが自力でできない場合が多く、排泄や入浴などにも一部または金助が必要。	
要介護3	要介護3	立ち上がりや歩行、排泄や入浴、衣服の着脱などに、ほぼ全面的な介助が必要。	日常生活全般にわたり、さらに動作能力が低下し、介護なしでは日常生活が困難。	
要介護4	要介護4	日常生活全般にわたり、さらに動作能力が低下し、介護なしでは日常生活が困難。	日常生活全般に全面的な介助が必要で、介助なしでは日常生活がほとんど不可能。	
要介護5	要介護5	日常生活全般に全面的な介助が必要で、介助なしでは日常生活がほとんど不可能。		

出典）介護ご利用者ネットワーク

## B) デイサービスって？

主に在宅で介護を受けている高齢者が通って利用するサービス

### 1日の流れ

9:30	自宅から送迎車に乗ってデイサービスへ
	看護士による健康チェック
10:00	入浴希望者は、介護職の介助を受けながら入浴
11:00	個別レクリエーション（折り紙や工作など）
12:00	昼食
13:30	集団レクリエーション（体操を兼ねたゲームなど）
15:00	おやつ
16:00	送迎開始（帰宅）

送迎付きで食事や入浴、  
レクリエーションなどを  
受けられる！！

### 利用料金 (要介護1：入浴や排泄の補助が必要)

- ✓ 1回の利用（5～9時間）で550～650円（1割自己負担の場合）
- ✓ 入浴や食事やプールは別料金

入浴加算	50 円/日
食事代	700 円/食
プール使用料	100 円/日

出典）コミュニティーデンマーク

## C) ショートステイ(短期入所生活介護)って？

日常生活の世話やレクリエーション、リハビリを受けるために**短期間の入所**をする施設

### どういう時に利用する？

- ・ 介護者が自由時間を確保したい時
- ・ 介護者が一時的に介護できなくなった時

例) 介護者が病気や怪我の場合  
介護に行き詰まった介護者が気分転換で旅行に行く場合など…

### 分類

併設型：医療施設や入所施設に併設  
単独型：ショートステイ専門



10

## C) ショートステイ ～どんな部屋でいくらかかる？～

### 部屋の種類

- ・ 従来型個室：一つの居室を1人で利用  
要介護1の場合…併設型・単独型ともに1日約700円前後
- ・ ユニット型個室：個室+共有スペース  
要介護1の場合…1日約700円
- ・ 多床型：1つの居室を複数人で利用（大部屋）  
要介護1の場合…併設型・単独型ともに1日約600円

ユニットケアとは：  
入居者一人ひとりに合わせた個別ケア  
によってそれぞれの自立を尊重しようとするケア

※介護度に比例して受けられる**サービス増**だが、**値段増**

↓  
必要な費用が増えてしまうため、**介護度の見直しをためらう**場合も



## D) 入居施設～いくらかかる？～

### 有料老人ホームの入居一時金・月額費用の平均相場

種類	入居金	月額利用料の目安
介護付有料老人ホーム	0～1億円以上	12～40万円
住宅型有料老人ホーム	0～1億円	
健康型有料老人ホーム	0～数千円以上	

出典) みんなの介護

施設によってさまざま…



13

## D) 入居施設～どうやって選ぶ？～

(例) つくば付近で有料老人ホームを探す

- ふるさとホーム つくば
- ✓ 入居時費用0万円
- ✓ 月額利用料：12.8万円
- ✓ 入居条件：  
要介護・60歳以上・認知症相談可・生活保護可・全国対応入居OK

- 湖の都 サンテアヌ土浦
- ✓ 入居時費用768～2050万円
- ✓ 月額利用料：16.5～20.8万円
- ✓ 入居条件：  
自立・要支援・要介護・60歳以上・認知症相談可・保証人要・生活保護不可・全国対応入居OK

出典) コミュニティガーデンつくば

うちのおばあちゃんは  
今75歳で**要介護**で**生活保護**  
も受けてるんだっつよな…



14

## 介護サービス～まとめ～

◆介護サービス：介護者と被介護者の負担を軽減するサービスのこと

- 訪問介護（ホームヘルプ）：  
住み慣れた家で生活を続けたい・続けさせたいという本人や家族等の期待に応えるため、身の回りのことをしてくれるサービス
- デイサービス：  
主に在宅で介護を受けている高齢者が通って利用するサービス
- ショートステイ（短期入居生活介護）：  
日常生活の世話やレクリエーション、リハビリを受けるために短期間の入所をする施設
- 入所施設  
・有料老人ホーム：要介護認定を受け、自立生活が困難な高齢者が入所する施設
- 住宅改修：手すりの設置・段差の解消など
- 福祉用具：杖やベッドなどのレンタルや購入のサポート

16

知っておくべき基礎知識  
～介護が抱える問題編～

自分達には  
まだ関係ないん  
じゃないの…？



## D) 入所施設～有料老人ホーム～

### 有料老人ホームって？

- ・ **要介護認定**を受け、**自立生活が困難**な高齢者が入所する施設
- ・ 主に以下の3種類



	介護付き 有料老人ホーム	住宅型有料 老人ホーム	健康型有料 老人ホーム
対象	要介護認定を受けた人	介護不要の方も可	自立した高齢者
受けられるサービス	①入浴や排せつなどの日常生活全般	①食事などのサービス ※施設常駐の介護スタッフによる介護サービス	①元気な方が暮らしを楽しむための設備が充実 (例：露天風呂やトレーニングルームなど) ②食事などのサービス ※介護が必要になったら退去しなければならない

12

## D) 入居施設～どうやって選ぶ？～

(例) つくば付近で有料老人ホームを探す

- ✓ ふるさとホーム つくば
- ✓ 入居時費用0万円
- ✓ 月額利用料：12.8万円
- ✓ 入居条件：  
要介護・60歳以上・認知症相談可・生活保護可・全国対応入居OK

- 湖の都 サンテアヌ土浦
- ✓ 入居時費用768～2050万円
- ✓ 月額利用料：16.5～20.8万円
- ✓ 入居条件：  
自立・要支援・要介護・60歳以上・認知症相談可・保証人要・生活保護不可・全国対応入居OK

出典) コミュニティガーデンつくば

自分の状況と希望に合ったものを探す  
(家探しをする感覚と似ている)



15

## 待機老人って？

- ・ **特別養護老人ホーム(特養)**に入所できない高齢者のこと  
(厚生労働省 定義)

約52万人 (2013年度)

- ※**特別養護老人ホーム** (2013年現在で全国に約7,800箇所)
- ✓在宅での生活が困難とされた高齢者が公的な介護サービスとして入居できる介護施設
- ✓現段階で入所できるのは要介護3から5の認定が必要
- ✓介護保険で運営資金の大半を賄っている

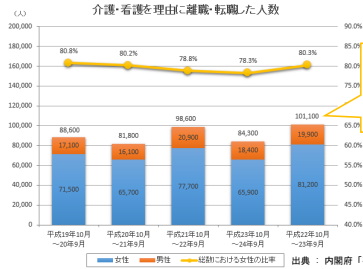


特養が足りないからといって新しく作る  
と**国の財政を圧迫**してしまうことになる

18

## 介護離職って多いの？

新聞やニュースで聞いたことはある…でも現状はよく知らないかも…

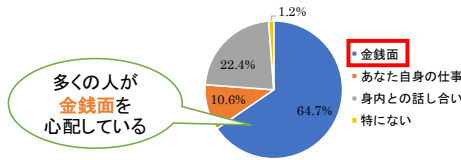


介護離職者数は年間約10万人

寝たきりや認知症などの場合介護離職という選択をばざるを得ない

## 事前アンケート（筑波大生129人対象）

もしあなたが今後、家族の介護に備えるとしたら、何が一番重要になるとお考えですか。



多くの人が金銭面を心配している  
希望と現状のギャップ  
多くの人が金銭面を心配している一方で、「介護サービスの費用について知っている」と答えた人は1～2%であった…



## それってまだ先なんじゃない？

親が介護をすることになった時に

- 介護者には悩みをひとりで抱えてしまいがち
- 介護には多くの身体的・精神的ストレスがかかる

自分には関係ないと思わない！（他人事だと思わない）話を聞いてあげるだけでも介護者にとってはとても良いこと

話を聞く・家事の手伝い・状況を理解してあげる など…

今後の自分と家族のために考えてみませんか？

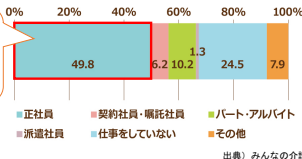


## 介護離職した後…再就職

でも介護離職したって再就職すればいいんじゃないの…？



【離職者】再就職の状況



正社員として再就職できているのは半数に満たない

なぜ？？

50代の働き盛りが介護離職をすることが多い  
→仕事から離れている期間が長いので再就職は厳しい

## 今後どうする？



就職時に

介護に関する福利厚生が充実している会社を選択する

介護休業制度：

- ✓「要介護状態」の家族を介護するために、対象家族一人につき1回、最大3ヶ月まで休業できる制度
- ✓しかし、制度があっても活用できるかは社風による…

「介護休暇なんて…」  
「仕事を続けられるのか…？」  
と思われる場合もある

## 金銭面だけ心配してれば大丈夫？

家族で相談する



- なかなかきっかけがないと親の老後の話はしないもの
- 親が今は元気でも何か起きる時にはどうすればいいか家族で考えてみよう！



## 介護相談窓口

地域包括支援センター	総合的な介護相談窓口 【主な相談内容】 ・介護の予防に向けての相談 ・介護サービスに関する各種相談 ・成年後見制度、高齢者虐待に関する相談
社会福祉協議会	生活の中の困りごとなどの相談窓口 【主な相談内容】 ・ボランティア活動に関する相談や活動先の紹介 ・弁護士による各種法律相談（実施していないところもあります） ・財産・相続に関する相談（実施していないところもあります）
保健所	医療・健康に関する相談窓口 【主な相談内容】 ・精神保健福祉相談員、保健師、精神科医師による心の健康、精神保健に関する相談
国民健康保険団体連合会	介護保険に関する情報相談窓口 【主な相談内容】 ・介護事業者とのトラブルに関する相談

出典：安心介護 26

## 参考文献

- 安心介護  
[https://ansinkaigo.jp/knowledge/850#anchor\\_02](https://ansinkaigo.jp/knowledge/850#anchor_02)  
<https://ansinkaigo.jp/gyosei/>
- かいごDB：[http://kaigodb.com/guides/guide\\_6/](http://kaigodb.com/guides/guide_6/)
- コミュニティガーデンつくば：  
<http://www.communitygarden.jp/tsukuba/price.html>
- みんなの介護：  
<https://www.minnanokaigo.com/facility/H354037/>
- Komachi 介護ご用聞きネット 介護のきほん：  
<http://www.kaigogoyoukiki.net/kihon/6/>
- LIFULL介護 介護保険適用サービスの種類と内容：  
<https://kaigo.homes.co.jp/manual/insurance/service/>

（最終閲覧日：2017年10月3日）

27